

PTA

やまがた



山形県PTA連合会ホームページ <https://www.ymgt-pta.jp>

第50号

令和8年2月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 長谷川吉之介

山形市十日町一丁目6番6号

(県保健福祉センター内)

TEL 023-631-0055 FAX 023-635-4359

・印刷所・

武田紙工株式会社

山形市和合町1-1-51 TEL 023(622)4187



酒田市立西荒瀬小学校父母と教師の会
(いのちの循環に感謝 ～イクラ丼試食会～)



米沢市立第六中学校父母と教師の会
(笑顔の花咲く！花いっぱい運動)



山形市立大郷小学校PTA
(子育てサポート委員会主催「子供の心と体の育ち」)



酒田市立鳥海八幡中学校PTA
(持続可能で地域とともにある学校へ)

《令和7年度山形県PTA連合会スローガン》

『情熱を持って子供たちの未来のために 一步を踏み出そう』

～かけがえのない時を子供たちの笑顔のために～

『情熱を持って』

子供たちの未来のために

一歩を踏み出そう

くかけがえのない時を子供たちの笑顔のために

山形県PTA連合会会長 長谷川 吉之介



山形県PTA連合会は『情熱を持って子供たちの未来のために一歩を踏み出そう』くかけがえのない時を子供たちの笑顔のためにくのスローガンのもと活動を展開してまいりました。

十月十八日に開催された「第七十七回山形県PTA研修大会新庄・最上大会」では、「ウェルビーイング」という、現代を生きる私たちにとって極めて重要なテーマに向き合い、県内各地の皆様と熱気あふれる学びを共有することができました。基調講演では、トキョーコーヒー代表の吉田田タカシ氏より「子どもの邪魔をしない教育と、次の社会のためのヒント集」と題し、ご講演をいただきました。「子供の主体性を尊重し、大人自身も常にアップデートし

続けることの大切さ」を、ユーモアと実例を交えて説くその力強い言葉に、会場全体が引き込まれ、時間が経つのを忘れるほどの感銘を受けました。本大会を通じ、子供たちの幸せを願う大人たちの熱意が一つに重なり、PTAの力が地域を動かす大きな原動力になることを、改めて確信いたしました。

九月十三日・十四日に開催された「第五十七回日本PTA東北ブロック研究大会仙台大会」では、「子どもを地域の真ん中において、家庭と学校、地域が一体となった三位一体の環境を整えていくために」その方策・方向性について、東北各県のPTA会員の皆様と意見を共有することができました。参加できなかった方々のために、仙台大会の「すべての分科会」及び「全体会」の動画をアーカイブ配信しています。分科会、記念講演を振り返りながら、子供たちの居場所づくりについて改めて考える機会になるのではないのでしょうか。

仙台大会では、地域の未来を支えるのは「子供を真ん中に置く」という揺るぎない姿勢であることを再確認できました。東北全体で共有したこの視点を、山形県のPTA活動にも確実に根付かせていきたいと強く感じています。

十一月十八日の県教委・県P連教育懇談会は「山形のこれからの教育」

についてでした。本県では、令和七年度からおおむね十年間の教育の目標と、今後五年間で進める施策の方向性を示した『第7次山形県教育振興計画』が策定されました。また、令和八年度入学生から新しい入学者選抜制度が始まります。山形県教育局の各担当者からの説明をお聞きし意見交換することで、「山形のこれからの教育」について理解を深めることができました。

現在、子供たちを取り巻く環境はかつてないスピードで変化しています。少子化や学校再編といった課題に直面する今、私たちは「持続可能なPTA活動」のあり方を真剣に模索していかねければなりません。しかし、時代がどう変わろうとも、私たちの原点は変わりません。愛する子供たちの健やかな成長と幸福を願い、親として、PTAとして何ができるのか。現状に満足することなく、これからも情熱を持って一歩を進めてまいります。

結びに、山形県教育委員会様をはじめとする関係各位の皆様のご温かいご支援に心より感謝申し上げます。今後とも変わらぬご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

日頃より山形県PTA連合会の活動に対しご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、単位PTAにおいても子供たちの健全育成のための環境づくりや学校と地域の架け橋として、ご尽力いただいておりますことに心より感謝と敬意を表します。

山形県PTA研修大会 新庄・最上大会を終えて

実行委員長 監物 雄一郎



令和七年十月十八日、第七十七回山形県PTA研修大会新庄・最上大会が新庄文化会館を会場に行われました。全体行事・基調講演に続き、コロナ後初となる分科会を開催致しました。大会開催にあたり、県PTA連合会そして最上地域の学校関係者の皆様に会場準備・当日の運営・後片付けなどのご協力を頂き、心より感謝申し上げます。
「ウェルビーイング〜子ども・家庭・地域のしあわせのために大人が

変わる〜」の大会テーマのもと、基調講演では教育や社会問題に取り組み「トリーコーヒー」を全国四〇〇拠点で展開し、二〇二五年キッズデザイン賞とグッドデザインアワード賞をダブル受賞したトリーコーヒー代表の吉田田タカシ氏より、「子どもの邪魔をしない教育と、次の社会のためのヒント集」と題して講演して頂きました。

二〇二四年八月二十三日、第七十七回日本PTA全国研究大会川崎大会に参加したとき、吉田田氏の講演に衝撃を受け、この方に新庄・最上大会で講演してほしいと強く想い、その場でコンタクトを取らせて頂きました。その衝撃を本大会で実現できました。二年間の想いが形になりました。少しでも山形県のPTAの皆様には、私と同じ想いをして頂くことができたと感じております。

講演では、「正解信仰(物事に正解があるという思い込み)を捨てる。」「生きていくことや幸せになること

に正解はない。」「答えは自分で作っている。」「自分たちで決める」ことはこれからの教育に重要なこと。」「主体性をなくすのは簡単、朝から晩までずっと叱ること。」「子供が学ぼうとしていることを先回りして奪わず、出来るだけ子供の社会を壊さないでおこうと、叱る基準について合意・約束事があればいい。」と話され、会場で「叱る基準カード」の提供をしてくれました。「アーティストⅡ自分の道で自分で作る子供・わくわくする社会を作る大人」をたくさん育てていくことが、様々な課題を解決するたった一つの方法。子供たちに裁量を渡して、「自分で決めていいんだ、自分でこれからの人生を作っていいんだ」と子供が思える教育をしていくことが必要であると教えていただきました。大会を振り返ると、来場された多くの方から賛辞を頂くことができ、吉田田氏をお招きしてよかったですと心から思いました。

また、分科会では吉田田氏の講演を受けて、家庭・学校・地域におけるウェルビーイングをテーマに開催いたしました。第一分科会では、株式会社ジョインの武田靖子氏による「自己肯定感を高め合う家庭教育の大切さ」、第二分科会では、最上地

区小学校長幹事の藤田貴敏氏による「二人一人の居場所がある学校にするために」、第三分科会では、大郷小学校での居場所づくり「ほっとるうむ」共同代表の松井愛氏による「子どもを守り、育てる地域コミュニティ」というテーマで講話をしていただきました。各分科会では、参加者を四つの地域にわけ、色の違うリストバンドを配布することで、別の地域の方と話し合うことができるデイスカッション形式の分科会になりました。「山形県内の違う地域のPTAの方とお話しでき、非常に勉強になった」と感想を頂きました。

今回の新庄・最上大会は、持続可能な大会を目標に作り上げてきました。年々人口減少に伴い、各地域でPTAの存続が危ぶまれてきておりますが、PTAはなくてはならない組織だと考えます。その中で役員や先生方の負担を軽減していくことが大事であると思います。

結びに〜子ども・家庭・地域のしあわせのために大人が変わる〜の大会主題のもと、心ひとつにして取り組むことができた大会だと思えます。協力いただいた、県内のPTAの皆様に感謝し、あいさつといたします。

県P連母親委員会から



県P連 母親委員会
委員長
渡邊 さおり

山形県PTA連合会母親委員会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、各郡・市PTA母親委員会におかれましても、さまざまな活動を展開していただき、心より感謝申し上げます。

母親委員会では、「いのちの尊さ大切さ」を活動テーマに掲げ、私たち一人ひとりが持つ命の尊さを改めて見つめ直し、子供たちの命と心を守り育むために何ができるかを考えながら、一年間取り組んでまいりました。各郡・市から寄せられた、子供たちの様子や子育ての悩み、そこでの活動や新たな取り組みなどのご意見を集約し、より良い家庭教育につながるための学びを深めてまいりました。母親委員会で発行している「母親委員会だより」をぜひご覧いただき、今年一年間の取り組みを共有していただければ幸いです。

家庭において男女が協力して子育てにあたることは、今や当たり前となってきましたが、日常的に子供と関わる場面では、お母さんの役割が大きいと感じられることもまだまだ多いのではないのでしょうか。一方で、山形県内では多くの学校で、お父さんがPTA会長を務めてくださっています。子供たちの未来をより良く支えるためには、お父さん・お母さん双方の意見と想いが大きな力になると信じております。母親委員会は、子供たちにとってより身近な存在であるお母さん方の生の声を集め、発信する大切な場として、これからも子育てを支え続けていきたいと思えます。

急速に変化するSNS社会の中で、子供たちを取り巻く環境は日々新たな課題に直面しています。便利さと同時に不安も抱える時代だからこそ、私たち大人が正しい情報を学ぶことが重要です。尊い命を大切にし、みんなが笑顔で過ごせるよう、これからも皆さんと一緒に学んでまいります。

各地区の活動報告

《山形市》

- ◆テーマ「いのちの尊さ大切さ」～笑顔でつなぐ みんなの心～
- ◆定例委員会3回(研修、情報交換等) 5/1 2.6/2 3.2/1 6
- ◆拡大母親委員会1回 11/8
講演：『子どもと大人が前向きに暮らすためにできること - SOSの出し方講座の取り組みから-』
講師：安保寛明氏(山形県立保健医療大学 教授 看護学科長)
- ◆“親学”家庭教育視察研修 11/17
山形広域炊飯施設・山形市学校給食センターと子育て支援ほほえみ食堂
- ◆母親委員会だより「マザーズねっとわーく」No.30 3月発行



令和7年度
第一回
母親委員会
令和7年6月1日

《上山市》

- ◆保護者研修会(上山市PTA連合協議会との共催)
- ①行政説明「学びの多様化学校(上山きらり学園)について」
- ②講演：「保護者と先生がともに創る学校
～不登校・ひきこもりのアウトリーチの現場から～」
講師：藤崎郁子氏(開善塾教育相談研究所長)

《天童・東村山地区》

- ◆母親の集いを地区PTA研修会と兼ねて実施

《最上地区》

- ◆地区母親委員会全員研修会 年1回(講演・演習)
- ◆代表母親委員会 年2回
- ◆母親委員会だより「かあちゃんほっとらいん」発行 2月

《北村山地区》

- ◆地区PTA代表母親委員一名が県P連母親委員会に出席する
村山市：4月顔合わせ会/翌年3月報告会
大石田町：母親交流会、おたより発行
尾花沢市：委員会開催、おたより発行
東根市：組織なし

《西村山》

- ◆委員会年3回開催(協議・研修会)
- ◆代表委員会年2回開催(企画運営)
～名称変更～
- ◆R7年5月の西村山PTA連合会総会において、母親委員会という名称を「子育て委員会」に変更し、それに係る規約改正も行った。
～研修会～
- ◆西村山PTA研修大会寒河江大会を実施し、子育て委員会の研修会と共催にした。

《鶴岡市》

- ◆地区PTA代表母親委員一名が県P連母親委員会に出席する

《東田川郡》

- ◆地区PTA代表母親委員一名が県P連母親委員会に出席する

《米沢市》

- ◆活動休止中

《西置賜地区》

- ◆地区PTA代表母親委員一名が県P連母親委員会に出席する
- ・長井市：母親委員会 (年1回)
- ・小国町：研修会の開催(年1回)
母親委員会 (年2回)
- ・飯豊町：研修会の開催(年1回)
- ・白鷹町：母親代表の会(年2回)

《酒田飽海》

- ◆母親委員会(情報交換会)
- ◆酒田飽海PTA研修大会協力

《東置賜地区》

- ◆地区PTA代表母親委員一名が県P連母親委員会に出席する
- ◆地区協議会において各市町の活動状況を報告



令和7年度
第四回
母親委員会
令和8年1月25日

山形県教育委員会・山形県PTA連合会教育懇談会

令和7年11月18日：県保健福祉センター

テーマ 「山形のこれからの教育」

山形県教育委員会では、社会経済情勢の変化や政府の教育政策の動向を踏まえ、本県における教育行政の方向性とともな中長期の施策を示すため、令和7年度から概ね10年間の目標等とあわせて、今後5年間に取り組む施策の方針及び主要施策の柱立てであるアクションを示した「第7次山形県教育振興計画」を策定しました。また、県立高校の魅力発信や入学者選抜情報の周知を図るため、「県立高校出前講座及び県立高校ポータルサイト」を立ち上げました。そして、令和8年度入学生から新しい入学者選抜制度が始まります。山形県PTA連合会としても、山形県教育局の担当者からの説明をお聞きし意見交換することで、「山形のこれからの教育」について理解を深めるために教育懇談会を実施しました。

話題提供者

- ・山形県教育委員会教育局教育政策課企画調整専門員
「第7次山形県教育振興計画について」……………菅谷内 敦 氏
- ・山形県教育局高校教育課課長補佐……………黒沼 直洋 氏
- ・山形県教育局高校未来創造室室長補佐
「令和8年度入学生からの
新しい入学者選抜制度と高校選抜について」……………庄司 洋一 氏



話題提供1 第7次山形県教育振興計画について

- ・「県民みんなでチャレンジ1～4」等について
- ・菅谷内先生の実践事例(元勤務校)から
一人の男の子の歌手になる夢を形にしたライブを開催、翌年はカラオケ大会になる。出場者は少数だったものの毎年開催、現在はミュージックショーに進化、新たな企画「児童会でファッションショー」になる。
- ・第7次教育振興計画の『県民みんなでチャレンジ』についてのグループトークから
「自分でラジオを組み立てて、防災ラジオとして活用してもらいたい」「フルマラソンに挑戦したい」
「小さな子供と対戦する新しい技をみつけない」「ゴミ拾い(個人活動から生徒会・地域へ広げたい)」

話題提供2 令和8年度入学生からの新しい入学者選抜制度と高校選抜について

- ・スクールミッション(社会的役割)、スクールポリシー(経営方針)等の作成と公表について
- ・前後期制の入学者選抜、ウェブ出願、選抜方法等について
- ・高校ポータルサイトでの情報発信、県立高校出前講座等について

話題提供1では、最初にグループに分かれアイスブレイクを行いました。ルールは「相手の意見を否定しないこと、大きく反応すること」です。お題は「私のワクワク無限大」で、最近ワクワクした出来事やワクワクを感じた瞬間の話を交えて自己紹介を行いました。後半は「県民みんなでチャレンジ」のテーマで「私がチャレンジしたいこと」の意見交換を行いました。子供だけではなく大人もいつもワクワクを感じながら、チャレンジや体験をしていくことが、みんなが幸せに暮らせる社会に繋がることがよくわかりました。話題提供2では、公立高校入学者選抜制度が大きく変わると聞いて不安もありましたが、説明を受けて全体像をつかむことができました。また、学力検査だけでなく多面的な評価を行う方針については、より公平性が高まる印象を受けました。

<まとめ>

急速な変化と多様性が求められる社会の中で、家庭や学校、地域での「体験」「探求」「尊重」「協働」を大切に、学びによって子供たちの「生きる力」を育むことが重要だと感じます。みんなが幸せを感じ、個性を大事にしながらチャレンジできる社会に向けて、まずは小さな一歩から歩みはじめましょう。県内各地から参加の皆様と、今そして未来に向けて自分たちにできることを活発に話し合うことができました。本当にありがとうございました。

山形県PTA連合会副母親委員長 大沼 賀世





山形県PTA連合会「親子読書推進委員会」

親子で読書 深める絆

～本を読む子はかならず伸びる～



山形県PTA連合会では、親子読書をととして生涯学習を進め、親子で学び、親子でコミュニケーションを活性化することにより、親子の絆が一層深まり、子供の心が豊かになることを願い、運動を推進しています。

親子読書・地域の活動

「親子の絆」と図書室

山形市立第五中学校

図書室に入って、すぐ正面の書棚が「ひまらや杉文庫」です。並んでいるのはPTA文化部の皆さんが選んだ本。進路の本、伝記、古今東西の古典、世界各地の写真集、面白いテーマの図鑑、AIや経済関係の本などなど、様々なジャンルの本があります。面出ししてある表紙からは、「広い世界を、逞しく、賢く、安全に生きていってほしい」という親の願いが伝わってきます。「ひまらや杉文庫」の本を手にとって、貸出カウンターに向かう生徒の姿を見ると、「未来を生きる子供たちへメッセージの贈り物が届くのだな」と、温かい気持ちになります。

フリー参観日や面談日は、図書室を開放して、保護者向けの貸出をしています。ここでは、こんな光景が見られます。「娘に頼まれたんです」とこぼれる笑顔で本を借りていくお母さん。親と一緒に図書室を見て回り、ちよつと得意そうに本の解説をしている中学生。授業参観の合間、絵本を読み聞かせてもらって嬉しそうな弟さんや妹さん。

図書室が親子の絆を深める一助になると実感する場面に出会うことは少なくありません。これからも、本を仲立ちに親子の絆が深まる機会を提供していきたいと思えます。



家庭も地域もともに楽しむ読書活動

上市市立中川小学校

本校では、本に触れる機会を増やし、子供たちの豊かな情操を育むために、家庭、地域、学校が連携して以下の活動に取り組んでいます。

【親子読書の取り組み】
全国読書週間並びにかみのやま教育の日に合わせて、親子読書活動に取り組んでいます。「親が子供に読んで聞かせる」「子供が親に読んで聞かせる」「親子で同じ本を読み、感じたことや考えたことを伝え合う」「親子で同じ時間に、静かに読書する」等々、やり方は自由。子供の学年や好みに応じて、各家庭で工夫して取り組みます。読んだ後は親子読書カードに、読んだ日と読んだ



本を記入し、最後に一言、親子で感想を記入します。

(子)お父さんお母さんとゆっくり絵本を読めたのしかったです。

(親)久しぶりに絵本を読む時間を過ごして、一ページ一ページ感じたところを話しながら読みました。見ている視点も大人と違うところを見ていて、また違う見方の面白さに出会うことができました。

【読み聞かせ隊読書ボランティアの方々による読み聞かせ】

地域読み聞かせボランティア「中川小読み聞かせ隊」の方々が、毎月第一月曜を基本に、朝の時間読み聞かせをしてくださいました。すべての学年に入っていたいでいます。子供たちにとっても、読み聞かせ隊の皆さんにとっても、月に一度の楽しみになっています。



ゆったり流れる 素敵な時間

村山市立楯岡中学校

12月8日(月)、PTA総務部の企画で「読み聞かせ会」を実施しました。恒例の行事になっている「読み聞かせ会」ですが、今年は、保護者の他に卒業生や、かつて保護者として参加経験のある地域の方々など、

ボランティアとして積極的な参加がありました。進行等の運営は生徒が行い、読み聞かせ後の感想発表では活発な発表がありました。この会を楽しみにしている生徒も多数おり、設定していた20分間は、読み手と聞き手の和やかな時間になりました。読み手の方々からは「中学校生活の日々の忙しさの中、ゆったりと流れる時間は大切」「こうした機会を大切にして読書への関心を高めてもらいたい」などの声が聞かれました。また、「来年もボランティアとして参加したい」という前向きな声も多数あり、来年度に向けてより有意義なものになるように計画したいと思いました。



学校・家庭・地域と
共にある読書活動

長井市立伊佐沢小学校

①おうち読書の日

本校では、毎月第3土曜日をメディアコントロールデー「おうち読

書の日」と位置づけ、家庭読書に取り組み日としています。

「読むことだけが読書じゃないよ」本が好きな子供も、苦手な子供も気軽に本と触れ合うことを目的に取り組んでいます。

②PTA広報部員による児童への朝の読み聞かせ活動(年2回)

広報部員の方々が、学校の図書室から担当学年に合った本を事前に選んで読み聞かせをしています。お母さんの読み聞かせは優しく心に響き、お父さんの読み聞かせは迫力満点です。

③「長井小町の会」による昔語り(年2回)

地域に伝わる昔話を語り継ぐボランティアサークル「長井小町の会」



の方々による出前語りです。笑い話やとんち話など、子供たちは、サークルの方々の語りに引き込まれています。

④ブックトーク

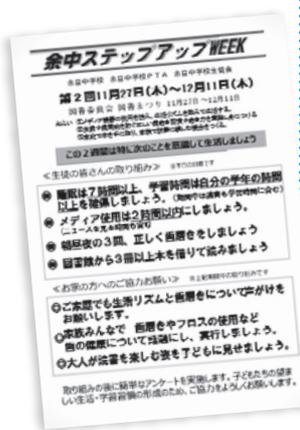
長井市立図書館の方々に、おすすめの本の紹介や読み聞かせをしていただきました。様々なジャンルの本を紹介していただき、子供たちの興味の幅が広がりました。

PTAと生徒会の連携で生活リズムの改善を

庄内町立余目中学校PTA

本校PTAでは、生徒会と連携して「余中ステップアップWEEK」という取り組みを行っています。今年度の2回目、生徒会図書委員会の「図書まつり」期間に合わせて実施した取り組みをご紹介します。

- ①メディア機器の使用を控え、生活リズムを整えて生活する。
- ②虫歯や歯周病を防ぐ正しい歯磨き習慣や磨き方を意識し身につける。
- ③家庭で本を手に取り、家族で読書に親しむ機会をつくる。



生徒の取り組みのポイントは、以下の4点です。

学習委員会、保健委員会、図書委員会を中心に生徒会が呼びかけます。

- ①睡眠7時間以上、学習時間は自分の学年の時間以上を確保する。
- ②メディア使用は2時間以内にする。
- ③朝昼夜の3回、正しく歯磨きをする。
- ④図書館から期間中3冊以上本を借りて読む。

(同居のご家族のために学校図書館から本を借りることも可能です)

保護者の皆さんにお願いしたいことは、各家庭での声かけと環境整備です。生活リズムと歯磨きについて声かけをお願いします。家族みんなで歯磨きをする、用具の整備など歯の健康について話題にするなどし、実行できることに取り組みましょう。読書については、面白い本を紹介し合う、一緒に本屋に出かけるなど本を話題にした会話ができたり、短時間でも大人が読書を楽しむ姿を子供に見せていただくことができたりすればありがたいです。

実施後、生徒と保護者にアンケートを行い、学校だよりで結果をお伝えしました。皆で課題を共有することができました。

みんなでよりよい「西荒瀬」に

～子供の成長を支える教育活動の展開～

酒田市直西荒瀬小学校 父母と教師の会会長 柵津寛紀



一、はじめに
本校は、酒田市の北西部に位置し、西に日本海、北に鳥海山や日向川、周囲には庄内米を生産する水田や、野菜・果樹を生産する砂丘畑、松林が広がる自然環境に恵まれた地域である。

明治七年に開校し、令和六年度に一五〇周年を迎えた。日向川鮭漁業生産組合を中心とする地域人材の支援による鮭の学習、先人の努力により整えられたクロマツ林に関わる学習等、生活科や総合的な学習の時間を中心に、豊かな自然環境をフィールドにした教育活動が長きにわたって実践されている。

二、特色ある取り組み

① 地域や企業等と連携した活動

日向川鮭漁業生産組合を中心とする地域の支援のもと、令和六年七月末の豪雨災害で継続が危ぶまれた鮭学習を実施し、児童が校内孵化施設



で育てた鮭の稚魚を日向川に放流した。また、食生活改善推進協議会や西荒瀬コミュニティ振興会の協力を得て、六年生が「鮭料理教室」を体験し、いのちの循環についての理解と感謝の気持ちを深めている。

地域の特色を生かした他の取り組みとして、令和六年度は

◆ 六学年 PTA
イクラ丼試食会、湧水見学及びそば打ち体験

◆ 五学年 PTA
田植え体験及び稲刈り体験、新米試食体験

◆ 四学年 PTA
「万里の松原に親しむ会」の協力による松林保全活動

等を行った。他には、令和六年度六学年が、地元企業おにまる」と学年PTAの協力のもと、オリジナルおにぎりの考案と販売を行った。

令和六年度五学年は、地元企業酒田米菓」と学年PTAの協力のものと、稲作体験及びオリジナルせんべいの考案等に取り組んだ。翌年度の修学旅行では、滞在先の仙台で「酒田米菓」と共にせんべいのPR活動を行った。

② 緊急事態における体制づくり

豪雨災害の経験から、学校・家庭・地域・関係機関等から意見を募り、連携の在り方等の見直しや改善を行った。集まった意見をもとに、年度内に引き渡し訓練を再度実施し、酒田市で設定している「安否確認」を送信するところまでを訓練と位置づけて行った。

また、豪雨災害を経験したことで、本校体育館が、昨今の酷暑時に市避難所としての機能を果たせるかどうかという課題が浮き彫りになった。

そこで、PTA総務委員会及び文化生活部が各自治会と連携して毎年行っている「資源回収」の収益金を、体育館窓の網戸設置に活用することに決めた。長年貯めてきた収益金を公益性の高い取り組みに使うことにし、家庭や地域から反対の声が出ることにはなかった。



③ 持続可能なPTA活動への変革

年々児童数及び家庭数が減少傾向であり、既存の組織構成では編制や運営に困難が生じることが予想される。また、昨今の厳しい社会状況の中で、PTA活動に関する考え方や取り組み方が変化していることもあり、PTA組織改編及び活動内容を精選するタイミングではないかと考えた。PTA総会において、組織改編に関わる規約改正案について協議がなされ、承認された。

今後は「一家庭一役を基本にした仕事や家庭に支障がない程度の必要最低限のPTA活動」と、「子供や各家庭、地域にとって有益なPTA活動」の両立を目指し、活動を進めていくことになる。

三、成果と今後の方向性

「地域の子供は自分たちで育てる」という保護者や地域の意識が高まった。また、子供たちの学びや成長を支える関係や体制が構築され、それぞれの絆が深まった。児童が様々な場面で賞賛されることで、自己肯定感が高まるとともに、地域に支えられているということを再認識するきっかけともなった。

今後は、児童に育みたい資質はどのようなものかという、学校・家庭・地域間の目標の共有を図りながら、新しいつながりによる教育活動の一層の向上・充実を目指していきたい。

家庭・学校・地域で

共に歩むPTA活動

米沢市立第六中学校 父母と教師の会会長 **猪口 洋平**



一、はじめに

本校は、創立七十五周年を迎える歴史と伝統のある学校である。今年度で閉校となるが、生徒は「創造」「尊重」「自律」「挑戦」の四つのキーワードを基に、六中生であることに誇りを持ち前向きに学校生活を送っている。この度、名誉ある賞をいただいたのも、これまでの伝統を創り上げてきた父母と教師の会の地道な努力や、関わってくださった全ての保護者の皆様と先生方、そして地域の皆様の協力が認められたものと思っている。

二、組織と主な活動について

今年度は、父母と教師の会の目標として「子どもたちと共に学び、共に成長を。」家庭・学校・地域で育む豊かな心」を掲げて活動している。

- 学年委員会：学年活動の推進
- 育成・研修委員会：花いっぱい運動・あいさつ運動
- 母親委員会：制服リサイクル
- 広報委員会：広報紙の発行
- 地区委員会：準会員費の集金

本校では、校区内の中学生のいないご家庭で会の趣旨にご賛同いただける方々から、準会員として会費をいただき活動経費補助にあてさせていただいている。

三、特色ある取り組み

① 花いっぱい運動

春に、生徒・保護者・



教職員で「花いっぱい運動(植栽活動)」を実施している。土に触れ、新しい命を植え付ける作業を通して、学校への愛着と、共に作業する喜びを分かち合えた。

② 全校あいさつ運動

市中総体に向け、学年の壁を越え、部活動のチームワークを深めるため、生徒会主催のあいさつ運動が行われた。同じ時期に、育成研委員会と母親委員会が中心となり朝のあいさつ運動を実施した。

③ 「六中鬼面太鼓」の継承

昭和五十五年に発足し、以来四十五年に渡って生徒の有志で活動している太鼓委員会がある。学校文化として大切にされてきた。今年度も創立七十五周年記念式典や地域の太鼓まつりで演奏を披露し、好評を得た。

④ PTA行事「芋煮会」の復活

六中の恒例行事として平成の初めまで行われていた「芋煮会」を閉校記念事業の一環のPTA行事として復活させた。PTA役員が準備・運営を手伝い、生徒たちは縦割り班ごとに芋煮を作って食べた。秋晴れの下の満面の笑顔が溢れ、絆が深まる思い出深い行事となった。

四、成果と今後の方向性

学校行事および地域連携活動において、生徒一人一人が主体的に参加する機会を充実させた結果、自己肯定感の向上と地域社会への理解・愛着の深化が図られた。また、長年に

わたる学校の歩みを振り返る記念事業を実施し、教育活動を支えてきた関係者への感謝と学校の歴史の意義を次世代へ継承する機会を創出した。

各種事業の企画・運営にあたっては、同窓会およびPTA役員を中心に継続的な協議を行い、多様な立場からの意見を反映させることで、組織的かつ円滑な活動推進を実現することができた。

学校再編に伴う新たな教育環境の構築に向け、PTA組織の在り方や活動内容について検討を重ね、持続可能な運営体制の整備を進めている。これまで培われてきた家庭・学校・地域の連携を基盤としつつ、時代の変化に対応した支援の在り方を模索し、子供たちの健やかな成長を支える協働体制のさらなる充実を図っていききたい。



まずは、今回の受賞に関して、これまで本校PTA活動に関わってくださった多くの諸先輩方、学校の先生方、地域の方々をはじめ、関係者の皆様のご理解とご協力で心から感謝申し上げます。

さて、「PTA活動」と聞いて、多くの保護者の方々はこう思っているのでしょうか。「やらされ感」があり、「仕方なく」役を引き受けた、という声を耳にすることが少なくありません。これは全国的にも共通した傾向であることを、今回の受賞を通して改めて実感しました。はて、そんな思いのままにPTA活動をしてよいのでしょうか。

私たちPTAが取り組む活動には、本来家庭で行うべき、子供へのしつけや性教育、メディア利用、生活習慣づくりなど、家庭教育に関わる内容が多く含まれています。しかし、私自身の反省も含めてになりませんが、近年は日々の忙しさや「どう教えてよいか分からない」という思いから、親が子供とじっくり向き合い、話し合ったり教えたりする時間を十分に持てていないのが現実ではないでしょうか。

本校PTAでは、こうした保護者の声を受け、主に次のような独自の取組みを企画し、実施することになりました。

一、特色ある取組み

一つ目は、親子とともに学ぶ研修機会の設定です。特に本校では、昨

年度から性教育をテーマに、PTA会員および五・六年生児童を対象とした研修会を開催することにしました。性教育は「必要」とは思うが家庭では話題にしづらい」と感じる保護者が多くいらつしやいます。そこで、地区内で産婦人科医院を開業されている医師・井上聡子氏を講師に招き、第二次性徴や思春期の特徴、参考となる書籍やウェブサイト等についても紹介いただき、実践的で充

日本PTA全国協議会会長表彰



山形市立大郷小学校PTA会長

佐藤陽介

「みんながWin-WinなPTA活動を！」

実した学びとなりました。

二つ目は、保護者同士のつながりづくりと子育ての悩み軽減を目的とした「茶話会」の実施です。フリー参加観日などに合わせ、校内にお菓子や飲み物を用意した会場を設け、気軽に語り合える場としました。当日は校長先生にも参加いただき、保護者が悩みを共有するだけでなく、学校での子供たちの様子や先生方の思いを直接聞く機会にもなりました。毎

回十名前後の参加があり、「同じ思いの保護者がいると分かり安心した」「先生と直接話せてよかった」といった声が寄せられています。「茶話会」は、保護者の孤立感を和らげ、学校との距離を縮める貴重な機会となつていきます。

二、今後の活動に向けて

子育てや家庭教育に関する研修や相談の機会を提供できたことは、保護者の安心感につながり、先生方の

も減らし、明るく子供に向き合えるようにすること、そして、それは保護者一人ひとりがPTA活動に前向きに関わることで実現しうることを、PTA活動の存在意義に結びつけていきたいと考えています。具体的には、

①様々な機会を通して、保護者や先生、地域の方々が「おらだの子供」について語り合い、「じゃあ、こうしてみつか」というアイデアにつなげることを。

②主体的に関わることで、「意外に楽しかった」という実感を保護者が持つこと。

③そして「こういう取組みが良かった」と満足感を得て、前向きな関わりが続くこと。

そうしたポジティブなサイクルが生まれるPTA活動、つまり、保護者、先生、そして地域の方々が、子供をまんなかにして、Win-Winの関係で関わり合えるPTA活動でありたいと願っています。この度、「日本PTA全国協議会会長賞」という素晴らしい賞をいただくことが出来たこと、とても光栄に思っています。このような賞をいただくことができたのはこれまで大郷小学校のPTAに関わっていただいた諸先輩方と現在のPTA会員の皆様、新旧教職員の皆様、そして本当にたくさん地域の皆様のご協力があるからこそ、と思います。心から感謝しております。

負担軽減という面でも一定の成果がありました。一方で、参加者が限られている点や、企画運営に関わる専門委員の負担が大きくなりがちなど、改善すべき課題もあります。教育効果と満足度を維持しながら、持続可能な取組みとするため、運営体制や引継ぎ方法の工夫が必要と考えています。

私は今後も、子育てや家庭教育に関する保護者の悩みや不安を少しでも

一、はじめに

本校は、平成十七年の市町合併により校名を改称した酒田市立八幡中学校と、酒田市立鳥海中学校が、平成二十二年に合併して現在に至る。

「夢と志をもち、たくましく生きる生徒く自立 協働 貢献」を教育目標とし、「『しあわせの花』が咲く学校」を目指す学校の姿としている。具体的には、『しあわせ』『し信頼』『あ心安心』『わわわくわく』『せ成長』、生徒・教職員・保護者・地域の四者の力を合わせて「四合わせ」(『しあわせ』な学校をつくることを目標にしている。

家庭・地域・学区小学校と連携した活動の充実を図り、「夢志day」を生かした「いのち」(生命や生き方)を考える機会の工夫、保護者、地域への積極的な情報発信と地域資源の活用、小中一貫教育推進事業(学区PTA連絡協議会・学区子供を育む会等)の推進を図っている。

二、PTA組織体制の改変

(令和六年度)

PTA総会で、PTA組織を検討していくことを提案し、七月にPTA三役と事務局で次年度のPTA組織について意見交換をした。PTA共同代表(PTA会長・副会長の役割を統合)、専門部の廃止、学年PTA役員の人数削減について案をまとめた。九月のPTA運営委員会で、

PTA組織体制や今後の進め方を確認し、十月に臨時PTA評議委員会(書面開催)、臨時PTA総会(書面開催)を行って、新年度のPTA組織体制について承認された。

(令和七年度)

これまでPTA会長が参加してきた各種会議等をリストアップし、共同代表内で各会議等に誰が参加するのか役割分担をした。それにより、役員への負担軽減が図られた。

日本PTA全国協議会会長表彰

「持続可能なPTA活動の模索について」



酒田市立鳥海八幡中学校PTA共同代表

小松有更

三、特色ある取り組み

家庭・学校・地域とのつながりの推進

【PTA学年保護者交流会】

学年PTAが中心となって実施した。授業参観日の壮行式後に行い、茶菓をとりながら和気あいあいとした雰囲気、自己紹介や子供のことなどを話し合い、保護者のつながりを深めることができた。

【グラウンド整備活動】



小松有更

六月下旬にグラウンド整備活動を行った。例年は、生徒、教職員、保護者で行っていたが、今年度は地域の方々からも協力いただいで四者の力を合わせた環境整備活動となった。地域への依頼は、コミュニケーションを依頼した。

【オータムコンサート】
酒田吹奏楽団を学校に招き、「生徒、保護者、地域の方のためのスペ

シャルコンサート」と銘打って、オータムコンサートを行った。本校吹奏楽部との合同演奏もあり、会場がひとつになって楽しめるコンサートとなった。また、地域の方々や近隣の老人介護施設の方々も来校し、PTA活動への理解と地域とのつながりを深めることができた。



四、成果と今後の方向性

PTA組織体制の改変によりスムーズな役員選出、役員間の連携、役員への負担軽減を図ることができた。またPTA会員や地域とのつながりを深めたり、無理なくできることを実施したりして、持続可能なPTA活動を探るための取り組みを行うことができた。

今後も、持続可能なPTA活動を模索しながら、家庭・学校・地域とのつながりを推進し、生徒の「自立・協働・貢献」を実現するPTA活動を行っていききたい。

東北ブロックPTA協議会
会長表彰を授賞して

山形市立第七中学校PTA

会長 長瀬洋一



山形市立第七中学校は、「おおさと、めいじ、でわ」の3学区が統合し設立され、それぞれの

頭文字を合わせると「お・め・で・とう」と大変縁起の良い学校です。この度の表彰は、会員の皆様の協力と、教職員の理解、同窓会やPTAの諸先輩方が築き上げてきた活動への評価と受け止めております。

毎年度、学年行事として、保護者と生徒が参加できる親子行事を企画し、1学年は認知症サポーター養成講座を開催し、2学年は山形花笠まつりへ保護者と共に参加、また、3学年は大曾根餅つき保存会の協力で、合格祈願の餅つきを行いました。

また、生徒たちは、七中学区3つの地域で開催される、文化祭運営スタッフボランティアとして参加、ごみ拾いボランティアや、町内会連合会と行政との

意見交換会へ参加し、地域に対する郷土愛の高揚、地域住民との繋がり・生きがい・活力ある地域づくりに貢献しています。

今年度より、母親委員会を子育てサポート委員会に改め、子が育つことを支えることに主眼を置き、「勇気づける子育て法」について講演会を開催し、また、実際に実践している保護者の体験談を紹介し懇談会を行うなど、保護者同士で学びを共有しました。

また、令和6年度山形市PTA連合会研修大会の主管校として、5年ぶりの通常開催という形で企画、運営を行いました。「こどもの未来に不可欠な『ウェルビーイング』くだけるが幸福で充実した人生を送るために」を全体会テーマとし、「こどもの居場づくり」、「こどもの心と体の育ち」の2つの分科会を開催し、学区内での取組事例や、地域性を前面に出した分科会等、内容・運営方法ともに学区内の小中PTA会員が工夫を凝らし開催しました。

今後、私たちPTAは、小・中学校の連携も含め、家庭と学校、地域が一体となり、子供たちが笑顔あふれる学校生活を送ることができるよう、子供たちの挑戦する姿を見守り、背中をそっと押してあげられる存在であり続けます。

東北ブロックPTA協議会
会長表彰を授賞して

戸沢村立戸沢学園PTA

会長 阿部将洋



戸沢村制七十周年の節目の年に会長を務めさせていただき、またこのような

名誉ある賞を受賞させていただいたことに、心より感謝申し上げます。本校の学区は、旧戸沢小学校、旧古口小学校、旧神田小学校、旧角川小学校の四地区から成り立っています。少子化の影響を受け

平成二十五年度に四校を統合し戸沢小学校を開校、戸沢中学校と角川中学校を統合し戸沢中学校を開校しました。平成二十九年度には山形県内初の校舎一体型小中一貫教育校としてスタートを切りました。さらに令和三年度には、小中一貫校から義務教育学校「戸沢学園」として開校しました。

本校は児童生徒二一五名と年々少子化が進んでおりますが、私たちPTAは、子供たちの健やかな成長と安心して学べる環境を守

るため活動しております。忙しい中でも、保護者の皆様、先生方、地域の皆様が協力してくださり、行事の運営や安全の見守り、環境整備など、様々な活動を通して、「みんなが支えあう学校づくり」を目指しています。時には意見の食い違いや思うようにいかないこともありませんが、話し合いを重ねることでお互いを理解し合い、信頼関係を深めていくこともPTA活動の大きな学びだと感じています。子供たちが行事や日々の学校生活を楽しんでいる姿を見るたびに、私たち保護者も自然と笑顔がこぼれます。

今回の表彰は、私個人に対するものでも、現在PTAに対するものでもなく、これまで関わってくださった全ての皆様の努力が認められた証だと思っております。戸沢学園はまだまだスタートを切ったばかりです。これからも地域と学校、家庭が手を取り合い、子供たちの未来を温かく見守っていきけるよう、微力ながら力を尽くしていきたいと思えます。

最後になりましたが、この度はこのような栄えある賞をいただき、本当にありがとうございます。これからも、子供たちの笑顔のために努力してまいります。

日本PTA全国研究大会石川大会に参加して

山形県PTA連合会副会長 佐藤美洋

八月二十二日(金)・二十三日(土)に第七十三回日本PTA全国研究大会石川大会が、「サステナブルな未来づくりのために」創造と協働を石川から大会テーマに開催されました。全国各地から多数の会員が参加する中、県内からは二十二名の会員が参加しました。

二十二日の分科会では、八つの分科会が行われました。私が参加した特別第一分科会では、「サステナブルなPTA活動を構築するために」今、改めて、PTAの存在意義を問う」の研究課題のもと、過去・現在・未来におけるPTA活動の意義、持続可能な組織や活動のあり方、なぜPTAが必要なのかの3つの視点にて、基調講演・パネルディスカッションが行われました。教育は「人格の完成」を目指すものである点、「学校教育」「家庭教育」「社会教育」にはそれぞれの役割と責任がある点、相互の連携及び協力を推進するためにPTAの果たす役割は大きい点等を学べる機会となりました。具体事例として紹介いただきました金沢市立城南中学校・南小立野小学校におけるPTA活動はHPも公開されておりますのでご参照ください。

二十三日の全体会では、「能登の創造的復興と学びの環境」～学習環境の魅力化あつてこそその復興～を演題に、経産省時にGIGAスクール構想を推進され、現石川県副知事の浅野大介氏の基調講演が開催されました。教育DXによる学び方の組み合わせ自在化の具体例等を交えながら、教育の新たな視点をお示しいただきました。

大会準備期間中でもある令和六年には、能登半島地震並びに奥能登豪雨と度重なる被災を経て、現在でも復興が儘ならない中でも、PTAを通じた支え合いの心、つながりの大切さを力強く発信したいと、強い意志を以て開催された大会であること、その強い意志こそがサステナブルな未来をつくる原動力であることを改めて感じさせてください。二日間でした。



東北ブロック研究大会仙台大会に参加して

山形県PTA連合会副会長 鹿野和之

「本気の大人たち！」



令和七年九月十三・十四日の二日間、仙台国際センター展示棟と東北大学百年記念会館川

内萩ホールを会場に、「仙台で織りなす未来～居場所を創るSDGsプロジェクト～」をテーマとした第五十七回日本PTA東北ブロック研究大会仙台大会が開催されました。子供たちの未来を信じ、本気で行動する大人たちの姿に、心が震えるほどの感動を覚えました。

私自身「子供の笑顔のために」を胸に活動を始めて三年。PTAは「大変」ではなく「未来を切り拓く挑戦」なのだと思感しました。どうすれば子供たちに安心できる居場所をつくれるのか。どうすれば地域と手を携え、持続可能な活動にできるのか。その答えを探す大人たちの真剣な姿こそが、子供たちの笑顔につながるのだと確信しました。

初日は基調講演や分科会、パネルディスカッションなどを通じ、多く

の学びと刺激を得ました。会場外では仙台らしい温かな「おもてなし」に触れ、大人たちの本気度を肌で感じました。

二日目は萩ホールに千名を超える参加者が集まり、和太鼓と歌で幕を開けたアトラクションに心を揺さぶられました。懸命に輝く子供たちの姿は、まさに宝物。記念講演では「脳の発達と子供のウェルビーイング」をテーマに新たな視点を学び、日常の関わりを見直す大きなヒントをいただきました。

大会を締めくくったチアダンスの舞に会場は一体となり、次期秋田大会への熱いエールが送られました。この二日間で本気の大人たちの凄さを目の当たりにし、だからこそ、「本気の大人」を生み出し、未来を支える力にしていきたいと強く誓いました。



栄えある受賞 おめでとうございます

今年度、県PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られました。誠にありがとうございます。(敬称略)

令和7年度優良PTA文部科学大臣表彰

(団体)

酒田市立西荒瀬小学校父母と教師の会
米沢市立第六中学校父母と教師の会

米沢市立広幡小学校PTA
米沢市立第六中学校父母と教師の会
飯豊町立添川小学校PTA
酒田市立鳥海八幡中学校PTA
酒田市立西荒瀬小学校父母と教師の会
庄内町立立川小学校PTA

令和7年度日本PTA全国協議会会長表彰

(団体)

山形市立大郷小学校PTA
酒田市立鳥海八幡中学校PTA

(個人)

佐藤 竜太 県P連前副会長(鶴岡市)
渡邊 剛 県P連前副会長(米沢市)
高橋あゆみ 県P連前母親委員長(山形市)

令和7年度全国小中学校PTA広報紙コンクール

(山形県PTA会長賞・日本PTA奨励賞)

酒田市立浜田小学校PTA	「はまだ」
酒田市立亀ヶ崎小学校保護者と教師の会	「ひなづる」
酒田市立松陵小学校PTA	「松陵」
新庄市立新庄小学校PTA	「いつくしみ」
村山市立楯岡小学校PTA	「たてやま」
酒田市立琢成小学校PTA	「琢成」
遊佐町立遊佐中学校PTA	「けやき」
山形市立第六中学校PTA	「龍山だより」
新庄市立新庄中学校父母と教師の会	「木かげ」
新庄市立明倫学園PTA	「めいゆう」

令和7年度東北ブロックPTA協議会会長表彰

(感謝状)

武田 靖裕 県P連前会長(山形市)

(団体)

山形市立第七中学校PTA
戸沢村立戸沢学園PTA

(個人)

金子 守人 県P連前理事(上山)
赤塚 弘行 県P連前理事(天童・東村山)
後藤 重喜 県P連前理事(西村山)
大山 拓也 県P連前理事(北村山)
平田 和也 県P連前理事(東置賜)
椎名 恭一 県P連前理事(西置賜)
石栗 聡 県P連前理事(東田川)
佐藤 耕 県P連前理事(酒田飽海)
佐藤 由佳 県P連前理事(副母親委員長)
奥山 貴大 県P連前監事(西村山)

(山形県PTA会長賞)

酒田市立浜中小学校PTA	「潮風」
酒田市立西荒瀬小学校父母と教師の会	「つくしんぼ」
鶴岡市立大泉小学校PTA	「穂なみ」
鶴岡市立京田小学校PTA	「希望(のぞみ)」

令和7年度山形県PTA連合会会長表彰

感謝状 (令和6年度県P連役員退任者)

武田 靖裕	佐藤 竜太	渡邊 剛
金子 守人	赤塚 弘行	後藤 重喜
大山 拓也	平田 和也	椎名 恭一
石栗 聡	佐藤 耕	高橋あゆみ
佐藤 由佳	小澤 敏一	森本 真紀
奥山 貴大		

令和7年度優良PTA山形県教育委員会表彰

尾花沢市立福原中学校PTA
山形市立大郷小学校PTA
山形市立第七中学校PTA
戸沢村立戸沢学園PTA

表彰状 (郡・市P連より推薦)

松井 愛	安達 和弘	國分 亮
黒田 紀章	高橋 潤	松田 裕一
樋口 智明	丹野 政人	高橋 満

令和7年度日本PTA年次表彰式
第47回全国小・中学校PTA広報紙コンクール表彰式
公益社団法人日本PTA全国協議会



山形県PTA連合会安全互助会から

安全互助会は山形県PTA連合会事業の一環として運営されています。
関係各位・保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

山形県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例

《条例の主な内容》

- ◎交通ルールの遵守 ◎自転車の安全利用
- ◎自転車保険の加入義務化 ◎自転車の適正な管理
- ◎自転車交通安全教育の充実
- ◎自転車運転者のヘルメット着用努力義務化(令和5年度より)

※自転車損害賠償保険等への加入について

児童・生徒の自転車での事故による損害については**安全互助会に加入していることで補償の対象となります。**未加入の学校PTAは是非ご検討下さい。

安全互助会ってなあに？ (単位PTA一括加入補償制度)

- * 児童・生徒の学校管理下外のけがや、日常生活の賠償事故を補償します。
- * PTA行事中のPTA会員(児童・生徒含む)のけがや賠償事故を補償します。
- * PTA活動時にトラブルに巻き込まれたときの法律相談やクレーム対応費用を補償します。
- * 補償内容によってSコース・Aコースがあります。
- * 24時間365日いつでも電話で事故の報告や問い合わせができます。(委託保険会社：AIG損害保険株)

▽近年の賠償事故の件数・支払金額増加傾向の対策として、賠償補償限度額1,000万円のSコースをおすすめします。

- ・特に人身事故は医療費の全額が請求され高額になる場合があります。万が一の事故に備え是非ご検討下さい。

▽子供が自転車に乗るときはヘルメットを着用させましょう。

- ・ヘルメット着用は努力義務です。ヘルメット着用を習慣化し、子供たちを重大事故から守りましょう。

▽事故の未然防止が一番大切です。

- ・傷害事故の中でスポ少やクラブチーム活動中のけがが目立ちます。
- ・登下校や外出時は安全確認の声掛けで注意喚起し、事故防止にご協力下さい。



加入 245 校の内訳		傷害事故支払状況 (PTA・児童生徒) (単位：千円)				賠償事故支払状況 (PTA・児童生徒) (単位：千円)			
Sコース	205校	年度	件数	児童・生徒	件数	PTA 傷害	年度	件数	PTA 傷害
Aコース	40校	令和4年度	971	10,196	7	693	令和4年度	60	3,435
		令和5年度	732	8,283	12	837	令和5年度	54	2,321
		令和6年度	551	3,578	22	626	令和6年度	45	3,107
		令和7年度(8.1.31現在)	250	2,106	6	148	令和7年度(8.1.31現在)	31	1,977



タブレット端末等の破損について

学校から持ち帰ったタブレットを自宅で誤って壊した場合、他人から借用した時点でその借用物に対する管理責任が生じるため、保険金のお支払い対象外となります。→任意加入の「やまがた子供総合保障制度」を推奨しています。

山形県PTA連合会「やまがた子供総合保障制度」について

- * 各ご家庭の**任意加入制度**です！(児童・生徒対象の保険です)
- * 年間掛金は、充実保障プラン～廉価プランの4プランから選べ、傷害(ケガ)・個人賠償責任・トラブル被害の補償と日常生活の様々なリスクを**24時間カバー**します。
- * **ケガの補償は、学校管理課内だけでなく**部活動や塾、習い事、学校の休みの日も含めて24時間補償します。(1日目から補償されます。)
- * **個人賠償責任補償**なので、自転車で他人にケガをさせたときや、学校貸与の学習端末(タブレット端末)の破損や紛失等にも対応できます。(示談サービス付き)
- * **トラブル被害対応補償**は、いじめ、SNSでの誹謗中傷などの被害を受けた際、弁護士や臨床心理士への相談費用や解決のための対策費用を補償します。(補償プランによっては補償対象外)
- * 24時間365日いつでも電話で事故の報告や問い合わせができます。

(委託保険会社：AIG損害保険(株))



第七十八回山形県PTA研修大会山形大会案内

山形県PTA連合会会長 長谷川 吉之介

先般開催されました「第七十七回山形県PTA研修大会新庄・最上大会」では、「ウエルビーイング」という今を生きる私たちに深く関わるテーマについて、県内PTAの皆様と活発な学び合いができたことに心より感謝申し上げます。

さて、この実りある学びのバトンを受け継ぎ、来年度は山形市PTA連合会が主管となり、令和八年十月十七日(土)山形テルサを会場に、「第七十八回山形県PTA研修大会山形大会」を開催いたします。新庄・最上大会で探求した「ウエルビーイング」を踏まえ、何よりも大切に活動の根源となる「いのち」を大きな柱として大会を構築したいと考えております。

「いのち輝く子供たち」を育成するために、私たち一人ひとりが「自分身事」として捉え、それぞれの立場で、情熱を持って一步を踏み出すこ

とが不可欠です。その熱意を高めるために、基調講演には、薬師寺副住職の大谷徹契(おおたにてつじょう)氏をお迎えいたします。千三百年の歴史を誇る古都・奈良の薬師寺の要として、全国で「いのちの尊さ」について力強く語り続けていらつしやる大谷氏のメッセージは、きっと皆様の胸を打つことでしょう。基調講演に続き、皆様の地域や課題に寄り添う分科会も充実させてまいります。

次なる一步を踏み出すために、この山形大会を、「県内PTAの情熱と知恵を結集する最高の場としたい！」それが山形市PTA連合会の熱き思いです。「いのち輝く未来」を共に創るために、令和八年十月十七日、山形テルサにお集まりいただき、共に未来への確かな一步を踏み出しましょう！皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

令和7年度 山形県PTA連合会役員名簿

職名	氏名	所属	学校名	職名	氏名	所属	学校名
会長	長谷川吉之介	山形市PTA連合会	山大附属中	理事	齋藤 健留	東田川郡PTA連合会	余目中
副会長	伊藤 健二	山形市PTA連合会	山形九小	理事	渡邊さおり	県P連母親委員会(委員長)	金井中
副会長	監物雄一郎	最上地区PTA協議会	新庄小	理事	大沼 賀世	県P連母親委員会(副委員長)	陵東中
副会長	佐藤 美洋	米沢市PTA連合会	米沢南部小	理事	高橋 昭一	県連合小学校長会	新庄小
副会長	鹿野 和之	酒田飽海PTA連合会	酒田泉小	理事	加藤 咲子	県中学校長会	山大附属中
理事	峯田 健	上市市PTA連合協議会	上山南中	監事	井上 哲寿	山形市PTA連合会	山形一小
理事	黒沼 義治	天童・東村山地区PTA連合会	天童二中	監事	原田 智之	上市市PTA連合協議会	宮川小
理事	犬飼 勝敏	西村山PTA連合会	陵東中	監事	栗原 宏之	県小中学校教頭会	山形十小
理事	佐藤 政史	北村山PTA連合会	楯岡中	事務局長	大江 昌信		
理事	相田 智和	東置賜地区PTA連合会	糠野目小	事務局員	高見 佳澄		
理事	前田 功	西置賜地区PTA連絡協議会	小国小	事務局員	佐藤 静子		
理事	上田 和義	鶴岡市PTA連合会	大山小				

編集後記

「PTAやまがた」第50号をお届けします。本号の編集にあたり、子供たちを思う気持ちや各PTAや各地域でしっかりと息づいていることを改めて感じる事ができました。社会の変化が大きい今だからこそ、家庭・学校・地域が寄り添い合い、子供たちの成長を見守るつながりの大切さが一層際立っているように思います。これからの時代に合った形でPTAが子供たちの力になれるよう、本会報もその一端を担えれば幸いです。50号という節目を迎えた今、皆さまとともに次の一步を進めていけることを心から願っています。

